スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

栃木県足利市

自治体名：　栃木県足利市
担当課名：　足利市教育委員会事務局学校教育課
電話番号：　0284-20-2220

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	178㎢
人口	136,467人
公立中学校数	11校
公立中学校生徒数	2,927人
部活動数 （運動部活動のみ）	90部活
地域クラブ活動数	14クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

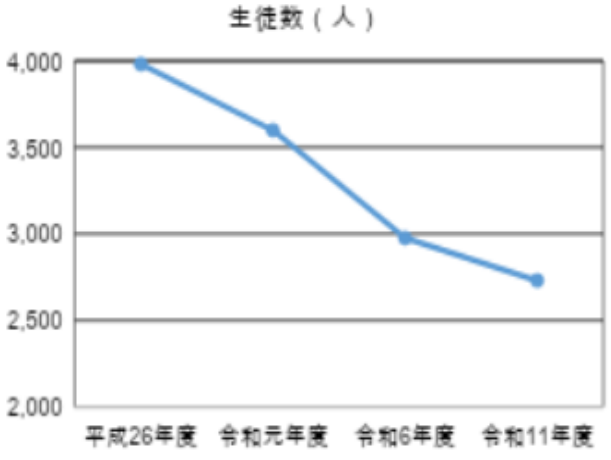
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

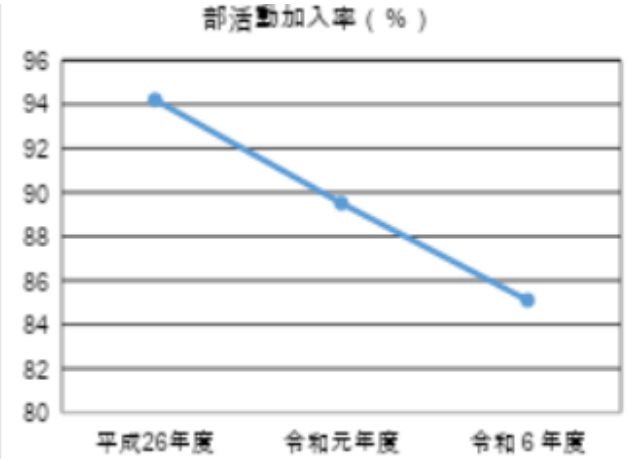
足利市では、少子化の進展に伴い生徒数、部活動加入率が減少傾向にある。令和7年度現在、市内には11校の公立中学校があるが 、生徒数の減少は部活動の存続に直結しており、特にサッカーや野球といった集団競技においては、単独校でのチーム編成が困難な種目が増加している。

本市では、「子どもたち自身が希望する種目に打ち込むことができる環境」を整えるための体制整備を進めており、令和5年度より足利市地域クラブ活動推進協議会を立ち上げ、教育関係者、スポーツ団体、保護者代表、関係各課を交えた協議を重ねてきた。また、指導者登録バンクを設立、拠点校部活動制度の推進をする等、市を上げて地域展開に向けて体制整備を進めている。

令和7年度からは、地域クラブ活動足利モデル事業としてサッカー部と野球部で地域クラブ活動をスタートした。このモデル事業を検証し、国の指針に基づき、他の種目においても段階的に地域展開を目指していく。

【足利市の生徒数と部活動加入率の推移】



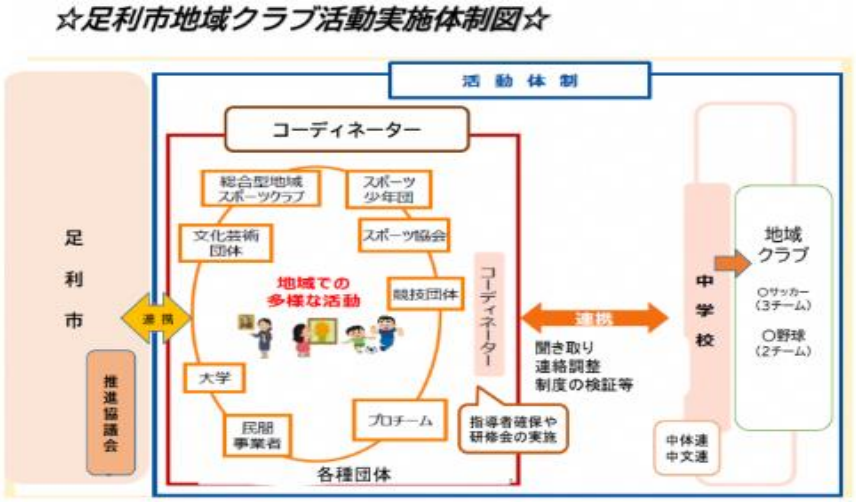


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・地域展開の主管・・・学校教育課
（関係各課の連絡調整等・・・部活動地域移行コーディネーター）
・各課の連絡調整・・・教育総務課
・スポーツ団体との連携・・・スポーツ戦略課
・文化団体との連携・・・文化課
・施設管理について・・・学校管理課
・生涯活動について・・・生涯学習課

◉首長部局

・財政予算措置・・・財政課

年間の事業スケジュール

○4月	地域クラブ活動足利モデル事業開始
	サッカー・野球専門部との打合せ
○5月	部活動地域移行コーディネーター市内全中学校
	状況視察（管理職・顧問・生徒との情報交換）
	スポーツ協会・文化協会との打合せ・情報交換
○6月	地域クラブ活動推進協議会作業部会
	（関係各課の担当者同士の打合せ）
○7月	第1回足利市地域クラブ活動推進協議会
○8月	足利モデル事業の保護者説明会
	地域クラブ活動状況視察（コーディネーター）
○9月	地域クラブ活動推進協議会作業部会
	第2回足利市地域クラブ活動推進協議会
	足利市地域クラブ活動ガイドライン策定
	教師等の兼職兼業ガイドライン策定
	野球地域クラブ説明会（小6保護者対象）
○10月	文化協会との打合せ
○11月	部活動地域展開クラウドファンディング開始
	サッカー地域クラブ説明会（小6保護者対象）
○12月	地域クラブ活動推進協議会作業部会
	市広報誌による地域展開情報提供
○1月	第3回足利市地域クラブ活動推進協議会
	足利市認定地域クラブ活動制度開始
	部活動指導者研修会（コーディネーター参加）
	地域クラブ活動に関するアンケートの検証
○2月	安足地区（足利市・佐野市）情報交換会
	地域クラブ活動状況視察（コーディネーター）
○3月	指導者研修会
	スポーツ体験教室（小6対象）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		14クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		14クラブ（28部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	35人	全体の運営スタッフ数	20人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
足利イースト FC	任意団体	サッカー	休日 月2回	3時間程度	3年 8名 2年 17名 1年 16名	令和7年4月～	4人	2人	1,000円程度/月	地域クラブ
足利セントラル FC	任意団体	サッカー	休日 月2回	3時間程度	2年 5名 1年 10名	令和7年9月～	3人	2人	1,000円程度/月	部活動
足利ウエスト FC	任意団体	サッカー	休日 月2回	3時間程度	2年 12名 1年 9名	令和7年9月～	5人	3人	1,000円程度/月	部活動
足利East BC	任意団体	野球	休日 月2回	3時間程度	2年 12名 1年 6名	令和7年9月～	5人	2人	1,000円程度/月	地域クラブ
足利West BC	任意団体	野球	休日 月2回	3時間程度	2年 8名 1年 21名	令和7年9月～	3人	2人	1,000円程度/月	地域クラブ

2.実証内容と成果

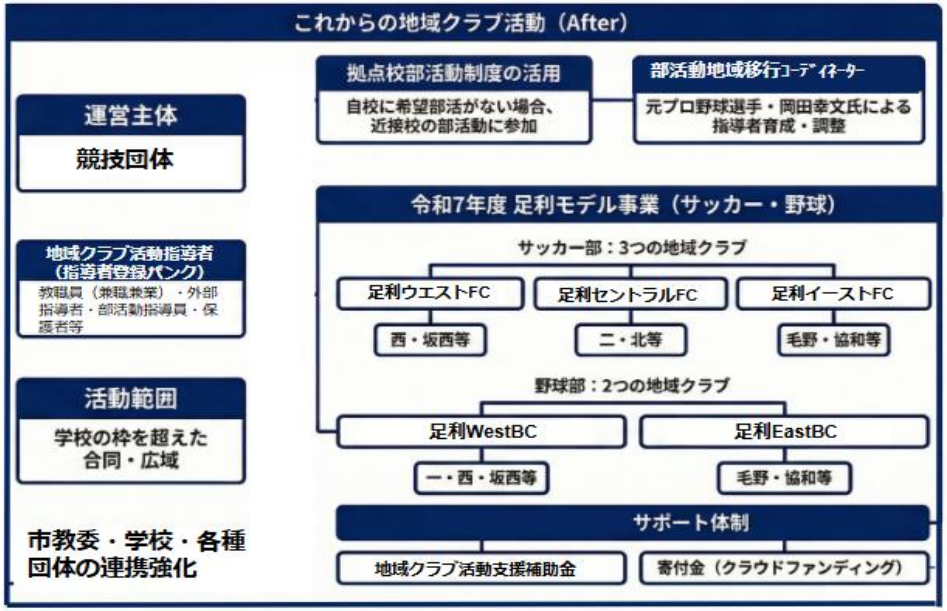
スポーツ庁

主な取組例

●足利イーストFC　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	任意団体
期間と日数	休日　月2回程度
指導者の主な属性	部活動指導員・教職員（兼職兼業）
活動場所	毛野中学校・協和中学校
主な移動手段	自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	1,000円程度/月
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●代表者

役割：地域クラブ活動の総括

●事務局

役割：地域クラブ活動に関する運営全般を行う

●指導者（監督・コーチ）

役割：クラブ員への指導を行う

●自治体（学校教育課・地域移行コーディネーター）

役割：学校と地域クラブ活動の実態把握・連絡調整

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・地域クラブ活動足利モデル事業として野球部とサッカー部の活動で週末の活動を地域クラブ活動として行った。
・野球専門部、サッカー専門部と連携をとりながら事業を進めた。
・保護者説明会も開催し、周知を図った。

取組の成果

・野球、サッカーともに近年競技者数が減少傾向にあったが、令和7年度地域クラブ化とともに競技者数が増加した。
・指導者も複数で対応することができ、今まで以上に充実した指導を行うことができた。

今後の取組における課題

・安定して地域クラブを運営をしていくための運営団体等の整備を進めていく必要がある。

課題への対応方針

・運営団体等の整備を進めていく上で、各種関係団体や地域への周知活動を今後も継続していく必要がある。

コーディネーターの具体的な動きの実績

・足利市部活動地域移行コーディネーターとして元プロ野球選手・コーチの岡田幸文氏を任用した。
・学校の現状把握として市内全中学校を訪問し、管理職、顧問、生徒から聞き取りや情報交換を行った。
・中学校長会や関係団体等とも常に連携し、情報交換や打合せを行った。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

・自分の在籍する学校に希望する部活動がない生徒は、近接する学校の部活動に参加できる「拠点校部活動制度」を充実させ、地域クラブ活動としても取り組むことができるよう活動体制を整備した。
・全学校で同様の健康観察アプリを導入しており、地域クラブとしても共有できる体制を整備した。
・足利市地域クラブ活動運営ガイドラインに基づき、どの団体でも同じように活動していくことができるよう整備した。

安全性確保に向けた取組

・足利市地域クラブ活動運営ガイドライン、足利市認定地域クラブ活動の要件を整備し、安全に運営を行うことができるようにした。
・参加生徒及び指導者に対し、スポーツ安全保険等への加入を義務付けた。
・事故等が発生した場合における保護者や関係機関等との適切な連絡調整を行うことができるようにした。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

・令和4年度より部活動指導員・外部指導者登録バンクを設立しており、登録バンクから地域クラブ活動指導者につなげた。
・市の広報誌、SNS等で情報提供を行った。また、各種団体の研修会等に参加し、地域展開の説明や指導者募集の周知活動を行った。
・運動部活動指導者研修会で、指導について振り返る機会を設定した。

取組の成果

・指導者登録バンクは増加傾向にあり、各校（各地域クラブ活動）への配置を進めることができた。現在の本市の登録者数31名（うち配置13名）（バンク登録以外にも多くの学校が直接指導者と交渉し、配置している）

今後の取組における課題

・休日の地域展開は進むものの、平日の放課後も含めた継続的な指導体制の確保が依然として困難である。
・ 種目によって部活動指導員や外部指導者の数にばらつきがある。また、地域クラブ活動指導者も種目によってばらつきがある。

課題への対応方針

・ 市の広報紙や公式SNS、また関係団体等との連携をさらに強化し、指導者が不足している種目を示して募集する必要がある。
・指導の内容等を地域全体にわかりやすく周知する必要がある。

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・関係団体としてスポーツ協会、スポーツ推進委員会、文化協会等さまざまな団体との連携を進めた。
・関係団体と連携をとる中で、中学生が体験・活動できるスポーツ・文化芸術活動一覧づくりを進めた。
・足利市地域クラブ活動推進協議会を年3回開催した。また、今年度は、作業部会を立ち上げ、関係各課の担当者で協議を行った。

取組の成果

・足利市中学校部活動地域展開プロジェクトとして中学生が体験・活動できるスポーツ・文化芸術活動一覧を作成し、小中学生やその保護者に周知を行うことができた。
・スポーツ・文化芸術活動だけでなく、育成会等の中学生ボランティアとも連携をとることができた。
・足利市地域クラブ活動推進協議会、作業部会を開催し、それぞれの担当の専門性を生かした協議を行い、地域展開の推進を図ることができた。

今後の取組における課題

・各種団体との連携もかなり進んできたが、団体種目と個人種目、また文化芸術活動など種目ごとに温度差が生じることがある。
・ 紙媒体や固定のPDF一覧では、各団体の活動日時等の変更をリアルタイムに反映できない。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

市区町村等を越えた取組

5月

令和7（2025）年度第1回安足地区部活動地域展開に関する情報交換会

- 栃木県教育委員会事務局安足教育事務所主催
- 安足地区（足利市・佐野市）の部活動地域展開担当者同士の交流を図り、情報交換し、今後のよりよい部活動地域展開について協議した。

8月

令和7（2025）年度部活動地域連携・地域移行市町担当者会議

- 栃木県教育委員会主催
- 部活動の地域連携・地域移行に係る実証事業の成果や課題について確認した。また、市町教育委員会等の担当者と各地域の現状を共有した。

9月

令和7（2025）年度部活動の地域連携・地域移行に係る個別相談会

- 栃木県教育委員会主催
- 部活動の地域連携・地域移行に向けて、各市町担当者と県担当者の相談で各市町の取組に対する助言や情報提供をいただき、本市の地域の実情に応じた部活動の地域連携・地域移行について助言をいただいた。

2月

令和7（2025）年度第2回安足地区部活動地域展開に関する情報交換会

- 栃木県教育委員会事務局安足教育事務所主催
- 安足地区（足利市・佐野市）の部活動地域展開担当者同士で情報交換し、今年度の取組の共有、次年度に向けての情報交換等を行った。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

・地域クラブ活動足利モデル事業の対象となっているサッカー3クラブ、野球2クラブに対し、足利市地域クラブ活動支援金として活動費、ユニフォーム代等の補助を実施した。
・クラウドファンディング「元プロ野球選手　岡田コーディネーターとともに、中学校部活動の新たな形を応援しようプロジェクト」を実施した。

取組の成果

・地域クラブとして大会にも出場するということで、保護者に負担をかけることなく地域クラブチームのユニフォームをつくり、大会に出場することができた。
・地域クラブ活動を行う場所、また使用する道具も学校との連携のもと、予算をかけることなく活動を行うことができた。
・クラウドファンディングを実施し、200万円を越える寄付をいただいた。本年度のモデル事業のサッカーや野球の活動、今後の地域展開の促進に生かすことができた。

今後の取組における課題

・今後、多くの指導者で指導を行う機会が増えるにあたり、指導者への謝金等の活動費が必要となってくる。受益者負担と公費負担のバランスを取りながら、なるべく低廉な活動費となるよう調整が必要である。
・地元の企業等との連携体制の整備が必要である。

キ：学校施設の活用等

取組事項

・本年度、全ての地域クラブ活動において、学校施設を優先的に使用した。
・学校施設の鍵のやり取りについても、学校と地域クラブで共有した。

取組の成果

・全ての地域クラブ活動において、学校施設を優先的に使うことができ、施設利用の費用を負担することなく活動できた。
・施設の鍵のやりとりについても、学校とも事前に情報共有することができ、休日、教職員に負担をかけることなく取組むことができた。

今後の取組における課題

・校庭や体育館等、セキュリティーが分かれている施設については借用は進んだが、校舎で活動する種目の対応については、教職員の協力が必要である。

課題への対応方針

・セキュリティー面の整備、校舎内の生徒の動線の調整等といった、整備がさらに必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

・足利市地域クラブ活動ガイドラインを策定した。（令和7年9月）
・地域クラブ活動における教師等の兼職兼業ガイドラインを策定した。（令和7年9月）
・足利市の認定地域クラブ要件を整備した。
・中学生が参加可能な活動情報を一覧にまとめ、生徒が新たな体験をできる環境を整備し周知した。

取組の成果

・足利市地域クラブ活動ガイドラインを策定することで、地域クラブとしての活動方針を関係者で共有することができた。
・兼職兼業ガイドラインを整備し、指導を続けたい教職員が続けやすい環境を整備することができた。
・認定地域クラブの要件を整備し、部活動が縮小しても今までと変わらない活動を続けることができた。
・参加可能な体験一覧をまとめたことで、生徒が今までの部活動では体験できなかった多様な体験をすることができた。

今後の取組における課題

・ガイドラインや認定要件については、国や県の方針に合わせながら、適宜修正を図っていく必要がある。
・生徒が新たな体験をでき、多様な価値観を創出できる環境を今以上に周知を図る必要がある。

課題への対応方針

・さまざまな関係団体と情報交換を行いながら、最新の情報を共有できる体制を整える。
・地域展開によって新たな価値の創出につながるという具体的なイメージをリーフレット等を作成し情報提供を行う。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

少子化が進む中、足利市の中学生が将来にわたり自分が希望する活動を継続して親しむことができる環境を整備することを目的に実施した。令和7年度は、地域クラブ活動足利モデル事業（単独校での実施が難しくなってきている、集団スポーツのサッカーと野球）を始めた。実施にあたっては、市教育委員会と校長会、専門部等多くの関係者が緊密に連携し、子どもたちが今までとかわらない安定した活動を続けることができるよう取組ことができた。また、モデル事業に加え、足利市地域クラブ活動ガイドライン等各種ガイドラインを整備し、足利市の状況にあった活動につなげることができた。

こうしたモデル事業やガイドライン等を基に、他の種目においても認定地域クラブとして活動を始めることができ、市内9割の中学校で地域展開を進めることができたことは非常に大きな前進である。

「地域全体で足利の子どもたちを育てる」という視点をもちながら、多くの関係者で協力しながら今後も地域展開事業を進めていきたい。

●成果の評価

本事業の最大の成果は、9割の市内中学校で1つ以上の部活動で地域クラブ活動として活動する地域展開の具体的な一歩を踏み出せた点にある。特に単独校での維持が困難なサッカー・野球における「足利モデル」の導入は、生徒が希望する競技を断念することなく継続できる環境を担保することができた。また、独自に策定した「足利市地域クラブ活動ガイドライン」等の諸規定が明確な指針となったことで、学校・保護者・地域が連携した認定地域クラブへの円滑な移行と活動の質の均一化が図られた。

運営面では、校長会や専門部との密接な連携により、学校教育との親和性を保ちながら地域展開を進める「足利方式」の有効性が確認された。これにより、教職員の休日における負担軽減が着実に進む一方、生徒は専門的な指導を受ける機会を得る等、指導体制の最適化において顕著な効果が見られた。地域全体で子供を育む土壌が醸成され、少子化を見据えた持続可能なスポーツ環境の基盤が確立されたことは、大きな成果である。

●今後に向けて

今後は、足利モデル事業を基盤に、他の多くの種目へとさらなる拡充を目指す。地域展開をさらに拡大し、どの学校に在籍していても等しく希望する活動を選択・継続できる体制を確立する。また、認定地域クラブの運営をより持続可能なものにするため、指導者の資質向上を図る研修の定期開催や、活動継続に向けた適正な受益者負担の在り方、経済的支援策の検討を加速させたい。さらに、スポーツのみならず文化芸術活動についても地域展開の検討を進め、「学問のまち足利」にふさわしい多様な選択肢を生徒に提供していく。学校と地域で連携し、ガイドラインを軸とした透明性の高い運用を徹底することで、生徒の豊かな活動を実現させ、次世代へつなぐ魅力ある教育・スポーツ環境の整備に尽力していく。

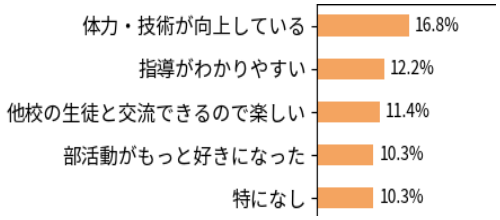
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

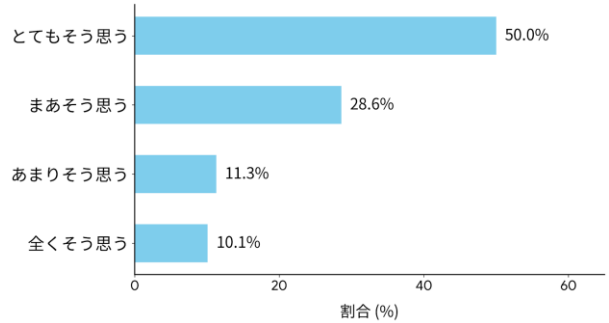
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（生徒　関係中学校1・2年生　739名）

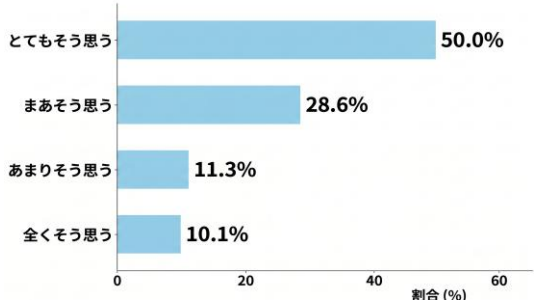
Q.地域クラブ活動に参加して、どのように感じていますか?（複数回答）



Q次年度も、休日の地域クラブ活動に参加したいと思いますか?



Q.地域クラブ活動を平日に行うことは賛成ですか?



●参加者の声

中学1年生女子
行くのが大変だけど、いろいろな人と交流できたりして上手くもなれるからいいと思いました。

中学1年生男子
部活動の回数とのバランスがしっかりできていると嬉しい。

中学1年生男子
部員不足がなくなりそう。

中学2年生男子
他校の人と平日にも一緒にできるのはいいと思う。

中学2年生男子
内容を少し聞いただけで詳しくはわからないから、もう少し全体で詳しく話してほしいと思っています。

栃木県教育委員会「令和7（2025）年度休日の地域クラブ活動に関するアンケート」（実施期間　令和8年1月5日～16日）における足利市の回答結果

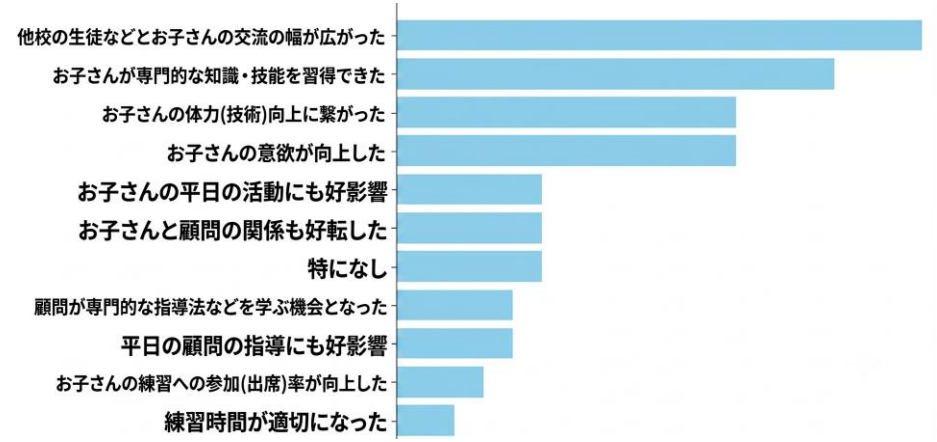
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

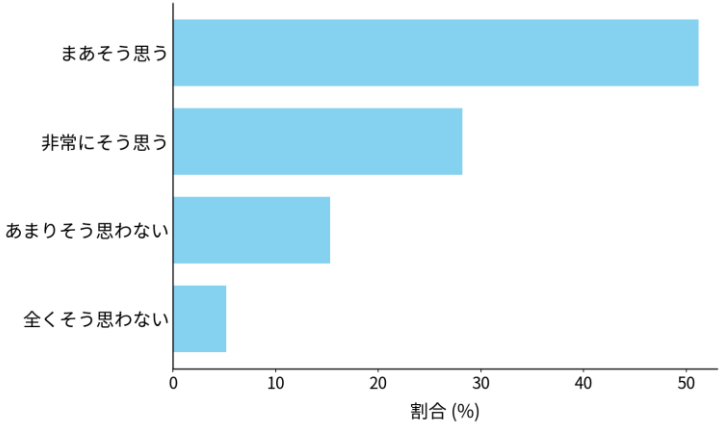
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（保護者　176名）

Q.休日の地域クラブ活動を実践して良かった点は何ですか?（複数回答）
※実証事業対象部活動（サッカー部・野球部）保護者26名



Q.次年度も、休日の部活動は地域クラブ活動として実施して欲しいですか。
※実証事業対象部活動（サッカー部・野球部）保護者26名



●関係者の声

保護者
　今後、各部活で人員確保が難しい場合、休日は地域で行うことで機能する部活もあると思います。しかし団体戦がある部活だと課題が残ると思います。

保護者
　やりたい生徒もいると思いますが、家庭の事情や勉強時間を確保したいという生徒もいると思うし、誰もが負担なく、自由に選択できればいいと思います。

保護者
　学校と連携しながら、平日も地域移行していくのが理想だと思います。子どもたちにとって、よりよい事業になるように期待しております。保護者も協力できることがありましたら参加します。よろしくお願いいたします。

栃木県教育委員会「令和7（2025）年度休日の地域クラブ活動に関するアンケート」（実施期間　令和8年1月5日～16日）における足利市の回答結果

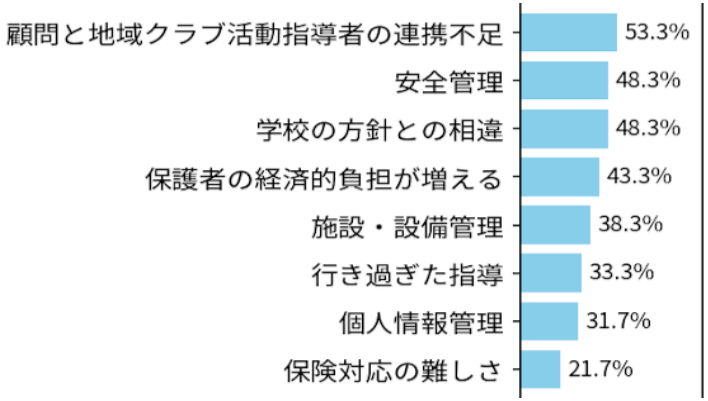
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

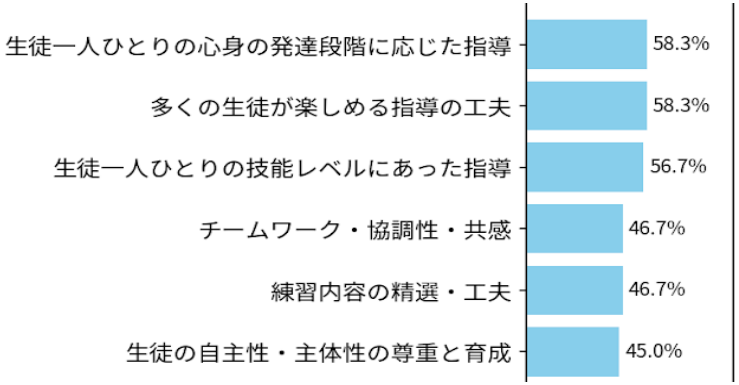
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（関係中学校　教職員60名）

Q. 休日の部活動が地域へ移行した場合、心配なことは何ですか。（複数回答）



Q.休日の地域クラブ活動の指導に当たり、指導者が特に重視するべきと思う点は何ですか。(複数選択可)?



●関係者の声

30代男性教諭（主顧問）

実際に地域移行をやっているが、より他校の生徒と関わりが深くなり、1つのチームを指導しているという感覚があり非常にやりがいがある。その一方で、連絡の難しさや指導者、今は先生だが、そこの連絡や意識を揃えるのが難しい。また、財源の確保が非常に難しい。そういった課題はたくさんあるが、概ね満足しています。

50代男性教諭（副顧問）

指導者の募集を引き続きホームページやあしかがみ等で大々的にしていってほしい。

40代女性教諭（主顧問）

この改革は良い取組であると思うが、しわ寄せが、生徒に向かわないように考えていきたい。

栃木県教育委員会「令和7（2025）年度休日の地域クラブ活動に関するアンケート」（実施期間　令和8年1月5日～16日）における足利市の回答結果

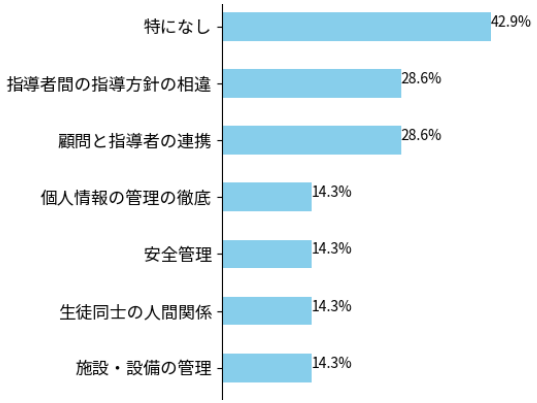
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

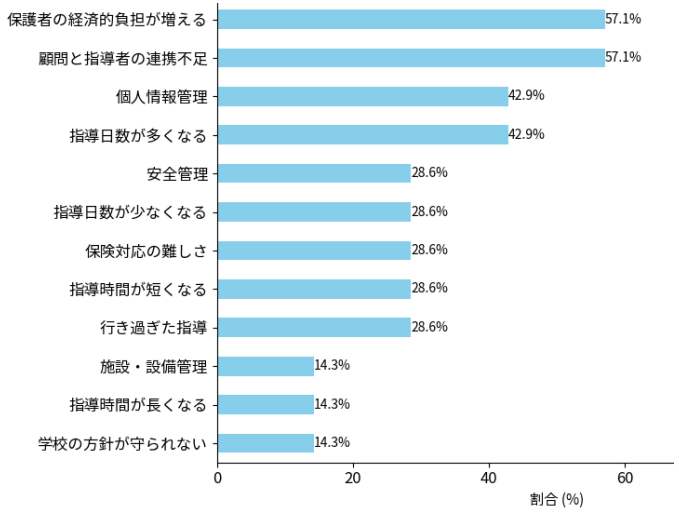
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（関係中学校長　7名）

Q.休日の地域クラブ活動を実践して、感じた課題は何ですか?（複数回答）



Q.休日の部活動が地域へ移行した場合、心配なことは何ですか?（複数回答）



●関係者の声

校長

積極的に進めていただきたい。その際、兼職兼業という形での教員だのみにならないようにしていただきたい。

校長

自治体主導で進めていただき、とてもありがたい。

校長

理想だが、現実的には難しい。人的、金銭的にゆとりのある地域しか移行できないと思います。

栃木県教育委員会「令和7（2025）年度休日の地域クラブ活動に関するアンケート」（実施期間　令和8年1月5日～16日）における足利市の回答結果

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【コーディネーターと学校長との情報交換】



【コーディネーターによる部活動視察】



【足利モデル事業　足利イーストFCの活動】



【足利モデル事業　足利WestBCの活動】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
・足利版部活動指導員・外部指導者登録バンク設置 ・各校の部活動の現状確認	・足利市地域クラブ活動推進協議会の立ち上げ ・地域移行に関するアンケート実施 ・各競技専門部長からの聞き取り	・協議会開催 ・拠点校部活動制度活用 ・合同チーム・合同練習の一層の推進 ・関係各種団体への協力依頼	・協議会開催 ・作業部会の立ち上げ ・拠点校部活動制度活用 ・コーディネーターの配置 ・足利モデル事業開始 ・各種ガイドライン策定

●ステークホルダー

学校、市教委（学校教育課、教育総務課、スポーツ戦略課、文化課生涯学習課、学校管理課、部活動地域移行コーディネーター）、市長部局スポーツ協会、スポーツ推進委員会、文化協会、各競技団体、PTA連合会

●経過

令和4年度には各学校の現状確認や他市町の状況調査を実施し、「足利版部活動指導員・外部指導者登録バンク」を設置して人的基盤の整備に着手した。

令和5年度には「足利市地域クラブ活動推進協議会」を立ち上げ、本格的な検討を開始した。同時に対象の児童生徒・保護者へチラシを配布して周知を図るとともに、各競技専門部長からの聞き取り、関係団体への協力依頼、アンケート調査を実施し意向を集約した。

令和6年度は同協議会での協議を重ね、指導者への研修会等を実施しながら、「地域クラブ活動ガイドライン」等の各種ガイドラインの策定へとつなげる段階的な合意形成を進めた。

令和7年度はモデル事業としてサッカー部・野球部の活動で地域クラブ活動を開始。各種ガイドライン等を策定し、本事業を検証し、今後他の種目への拡充を図ってきた。

●実施にあたって生じた課題

実施にあたり、学校、行政各課、地域団体、保護者等多岐にわたる関係者間の丁寧な合意形成と役割分担の調整に多大な時間を要したことが課題として挙げられる。

指導者バンクを設置したものの、全種目を網羅する安定的な指導者の確保や質の担保（研修等）は継続的な課題である。さらに、先行実施したサッカー・野球以外の種目や文化部への拡充に向けて、地域の受け皿整備や保護者の負担軽減策の構築も求められている。

●実施内容、工夫した点 等

実施にあたり、多様な関係者との段階的な合意形成と実証を重ねることができた。工夫した点は、協議会の設置だけでなく、作業部会の設置、児童生徒・保護者へのチラシを通じた周知やアンケートだけでなく市の広報誌を通じた全世帯への周知等が挙げられる。また、各競技団体からの丁寧な聞き取りや校長会との情報交換等現場の声を多角的に拾い上げて進めることができた。また、早期に「足利版指導者登録バンク」を整備し、令和7年度にはサッカー・野球で「足利モデル事業」としてスタートを切り、着実に検証・拡充を図るプロセスを構築することができた。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
市	・足利版指導者人材バンク設置 ・各校部活動現状確認 ・部活動指導員配置（1名）	・指導者人材バンク拡充 ・部活動指導員配置（4名） ・足利市地域クラブ活動推進協議会開催（2回） ・地域移行、拠点校部活動制度について保護者周知 ・地域移行に関するアンケート実施 ・各競技専門部長、関係各種団体との連携開始	・指導者人材バンク拡充 ・部活動指導員（8名） ・足利市地域クラブ活動推進協議会開催（3回） ・地域移行、拠点校部活動制度について保護者周知 ・指導者への研修会実施	・指導者人材バンク拡充 ・部活動指導員配置（11名） ・足利市地域クラブ活動推進協議会開催（3回） ・協議会作業部会の開催 ・足利市地域クラブ活動ガイドライン策定 ・地域クラブ活動における教師等の兼職兼業ガイドライン策定 ・足利市の認定地域クラブ要件整備 ・中学生体験一覧表作成	・指導者人材バンク拡充 ・部活動指導員増員 ・足利市地域クラブ活動推進協議会開催 ・協議会作業部会の開催 ・足利市地域展開推進計画の策定予定 ・足利市の認定要件整備
学校		・合同チーム、合同練習の推進	・合同チーム、合同練習の一層の推進 ・拠点校部活動制度活用	・拠点校部活動制度活用 ・サッカー部、野球部で足利モデル事業開始 ・教職員の兼職兼業による地域クラブ活動参加 ・足利市認定地域クラブ活動の開始	・拠点校部活動制度活用 ・部活動と地域クラブ活動の併存、連携強化 ・各種目ごとに大会規定等の方向性に合った地域展開の形を推進 ・校舎等利用方法検討